

「2024年度タイ・チュラロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 北庄司 優乃

今回のスプリングスクールに参加する前、私のタイに対するイメージは「発展途上国の一つで、料理が美味しい国」という漠然としたものだった。しかし、実際に現地で生活し、チュラロンコーン大学の学生と交流することで、このイメージは大きく変わった。特に驚いたのはバンコクの発展ぶりだった。チュラロンコーン大学周辺には高層ビルや大型ショッピングモールが立ち並び、京都大学周辺よりも都会的であると感じた。一方で、路地裏に入ると急に雰囲気が変わり、屋台がひしめくエリアや、治安の面で少し注意が必要な場所もあった。このような都市の二面性を実際に目の当たりにしたことで、発展の裏にある社会の多様な側面を実感した。タイの学生との交流も貴重な経験となった。特に、日本語専攻の学生が案内などをしてくれ、日本語で会話できたことで、すぐに打ち解けることができた。彼らは日本の文化にも詳しく、共通の話題を通じて自然に仲良くなることができた。一方で、英語での授業が多く、リスニングやスピーキングの重要性を痛感した。英語ができればもっと多くの人と交流できると感じ、学習意欲が高まった。プログラムでは、タイ語の授業やタイの文化・歴史に関する講義を受けたほか、アユタヤでの実地研修も行われた。タイ語の授業では、基本的な日常会話を学び、大学の食堂で実際に使う機会もあった。また、アユタヤの実地研修では、歴史的遺産を訪れ、かつての王都の壮大な遺跡を目の当たりにした。ワット・マハータートの仏頭が木の根に埋もれている光景は特に印象的だった。午後休や休日には、寺院巡りやマーケット探索をし、現地の生活や文化を深く知ることができた。ワット・ポーでは巨大な涅槃仏の迫力に圧倒され、水上マーケットではタイならではの屋台文化を体験した。こうした経験を通じて、食文化の違いを肌で感じることもできた。この経験を通じて、異文化理解への関心が一層深まり、今後も海外に行く機会を積極的に作りたいと考えるようになった。今回の経験を通じて、「実際に現地に行くからこそ得られる学びがある」と強く感じたため、次はタイ以外の国にも足を運び、その国ならではの文化や人々との交流を通じて、新しい価値観を得たいと考えている。また、将来の進路についても、日本国内に限らず、海外進出している企業や国際的な仕事を選択肢に入れるようになった。特に、東南アジアの発展を実際に目の当たりにしたことで、この地域でのビジネスの可能性に魅力を感じるようになった。今後の就職活動では、海外事業に携われる企業も視野に入れていきたい。今回のスプリングスクールは、視野を広げる貴重な機会となり、海外経験の大切さを実感した。今後は英語学習を強化し、より多様な文化の中で自分の意見を伝えられる力を身につけたい。そして、今回の経験を活かし、さらに多くの国を訪れてみたいと考えている。